



創造・参加・実践

West・Bus News

西日本旅客鉄道労働組合
西日本 JR バス地方本部
〒530-0012
大阪市北区芝田2丁目1番18号西阪急ビル8F
TEL (NTT)06-6373-0315 (JR)071-4585
email bus@jv-u.org.jp
発行責任者 矢田 尊弘
編集責任者 藤原 敏洋



JR 西労組 第32回 定期地方本部大会開催される！

全組合員による総団結で社会変容に対応し、構造改革の歩みを進め、反転攻勢に転じ、安全を最優先に働きがいと希望の持てる、明るい未来を切り拓こう！

安全を最優先に働きがいと希望の持てる、明るい未来を切り拓こう！

大会議長には、高木代議員（本社分会）を選出し、議事に入りました。先ず、主催者を代表して、矢田執行委員長より、①安全の確立について、安全に対する意識は高まっているが、一歩間違えば、重大事故に繋がる事象は撲滅できない、「安全お守り手帳」を活用し、「V」あたりまえの「B」馬鹿にせず、「C」ちゃんとする「ABC」運動を活用する。②社会変容への対応と働き甲斐と連動し確保に向けた取り組みについて、組合員一人一人が夢と希望、誇りの持てる構造改革、働く側視点で、安全で安心な職場環境の確立と魅力あるバス産業の構築に取り組む。③総合労働協約改定交渉・冬季賞与・2023春季生活闘争については、コロナ禍の影響による社会変容においても安心して働き続けられる環境整備と冬季賞与については、これまで通り食いついて頑張ってきた組合員と家族の未来に繋がるメッセージを発せられるように全力を尽くして賃金の底上げを目指し頑張っていく。



矢田執行委員長



高木議長（本社分会）

④組織の充実・強化について、組合員に寄り添い、対話を大切にし、きめ細やかな対応を行う。⑤政策・政治について、参院選では激しい結果となったが、行政を取り込むことの必要性と来春予定されている統一地方選挙の勝利に向け、全力で取り組んでいく事など、本大会に課せられた主要課題5点について提起がされました。



上村中央執行委員長



川端総務部長

来賓を代表して、JR連合森安政策局長と上村中央執行委員長より挨拶を受けました。森安政策局長より、交通産業界は、コロナ禍の影響で大打撃を受けている。今後は生活の底上げや、ポストコロナへの支援や手当に依存しない安定した賃金体制の確保に向けて取り組んでいかなければならないと挨拶がされ、次に中央本部を代表し、上村中央執行委員長より安全、会社の経営状況、新型コロナウイルス感染症対応、物価上昇に対する対応、離職に歯止めをかけられるように総合労働協約改訂交渉、冬季賞与と交渉に向けて全力で取り組んでいくことなどについて挨拶がされました。

議事では、永易書記次長から経過報告を、下橋業務部長から協約・協定の締結を、前畑書記長から運動方針（案）、予算案の提起が行われ、全体質疑では7名の代議員より、組合への協力が得られにくい、物価高騰の負担増、組合費の減額ができないか、熱中症対策、拘束時間の短縮、前広な運行計画などの情報提供、業務の煩雑化、要員不足、働き方の選択、55歳以降の賃金調整率の撤廃、勤務の平準化、運転時分の改善、一般線と高速線の賃金は是正、脱帽について、など15項目の積極的かつ切実な思いのある発言があり、質疑に対しては執行部並びに中央本部から回答が行われ、前畑書記長から総括答弁を受け、上窪青年女性委員長から大会宣言案の提起があり、一括での採択を満場一致で承認され、向こう1年間の運動方針が決定した後、矢田委員長の、団結ガンバロ！で大会を締めくくりました。



森下取締役常務



森安政策局長 (JR 連合)



井上代議員 (梅津分会)

事故を起こした時の教育の在り方などはしっかりとした基準を作っていました。

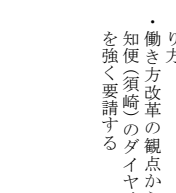


奥野代議員 (大阪北分会)

物価上昇に対する手当の支給、組合費の減額など生活への負担を軽くしてほしい。



尾西代議員 (大阪分会)



北尾代議員 (京都分会)

・ 共済の必要性と今後の在り方
・ 働き方改革の観点から高知便(須崎)のダイヤ改正を強く要請する



木村代議員 (京丹波分会)

・ 京丹波営業所の今後の将来展望における脱帽の延期を



鈴木代議員 (神戸分会)

・ 要員不足が解消しないため、神戸単独での採用ができない
・ 短日数短時間ができる幅広い勤務形態を
・ 運転時分の見直し



黒川代議員 (金沢分会)

・ 最近コロナ禍の対策として施策の実施がされるが、運行計画などの情報をなるべく早く伝えてほしい。



今年はZoomを併用としたハイブリット方式での開催！



多数のメッセージも

前畑書記長総括答弁 要旨
国内のコロナ感染状況については、行動制限のない夏。お客様が戻りつつあると肌で感じたと思う。一方で感染者の数が過去最多を更新するなど懸念もあつたが人流は減少せず。感染拡大からの制限緩和。緩和されていても社会は自衛を選択すると思えていたが共存の道を選びはじめた。
秋・年末に掛ける乗客も一定数は戻ってくるだろうと予測される。引き続き仲間のため、何より大切な家族のため感染予防に留意して安全運行に努めていただきます。
長引くコロナ禍の影響で悲観的な話題が多いが、こんな時こそ真価を問われる組合だと思われ、現場の組合員に寄り添ってあげて欲しいと思う。
定期大会が終わると、先ずは労働協約後冬季賞与の交渉に入る。現場のみならずのモチベーション向上に少しでも繋がるよう矢田委員長を先頭に地方本部一丸となって鋭意交渉に努めてまいり、お返しに総括とさせていただきます。



前畑書記長